

---

# 招き猫

砂 .

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

招き猫

### 【Nコード】

N5163A

### 【作者名】

砂・

### 【あらすじ】

ある商店街にいるその猫は、人々に『くろすけ』と呼ばれていた。そしてくろすけは人々に愛されていて……。

その猫は、商店街の入り口に寝そべっていた。

ずっと、その商店街にいる、看板猫。

いつしか、誰かは知らないがその猫は『くろすけ』という名前がついた。

## 招き猫

くろすけはずっと、商店街の店の人々に可愛がられた。

そして、くろすけの目を掻くクセが人を招いているように見えるらしく、一部の人には『招き猫だ』とも言われるようになった。

毎日毎日、くろすけは商店街を出入りする人々を眺めては寝る。

それだけで、幸せだった。

食べ物には困らないし、人は優しいし、居心地が良い。

願わくば、ずっと此处に居たいほど……。

生命は、生まれては消える。

ということは、生まれては死ぬ、という事。

人間だっていつかは死んでしまう訳だし。

勿論、くろすけにも寿命というものがあった。

くろすけ自身が異変に気付いたのは、寒さが余計に増してきた1月の下旬ごろ。

それは突然に、猫に不幸を与えた。

……商店街が、見えない。

その日の朝、くろすけが起きても、そこにあるはずの店や人々が何もかも、見えなくなっていた。

何もかもが、闇に溶けた。くろすけに、そんな印象を与えた。

しかし、街が溶けたのではなく、くろすけが目の病気に冒されていたのだ。

そのうち店の人々も異変に気付き、くろすけを家の中に入れてくれた。

『くろすけや、もう休んでいいんだよ』

店の老夫婦は『招き猫』に無理をするなど言ったが、『招き猫』にはそれが受け入れられなかった。

目が見えないながらも、『招き猫』くろすけはいつもの入り口に行った。

目には痛みが出て、腫れて来ていた。

店の人は、くろすけを探し出して近づいた。  
その時、店のおじさんは聞いた。

……くろすけの、叫びを。

オレはくろすけだ……！この商店街の招き猫なんだ！まだ……  
まだ人を呼ばなくちゃいけないんだ！！

くろすけに近づいたおじさんは、くろすけを抱きかかえた。  
周りの人も次々に近寄ってきた。

言葉は、まだ続く。

オレは、幸せだったんだよ……。もっと、此处に居たかつ

……

くろすけから、力が抜けた。

ぐつたりと、おじさんの腕の中で弱くなるくろすけ。

「くろすけ……………。ありがとう」

くろすけは、死んだ。

その日、商店街の人々は聞いた。くろすけの叫び声を。

喋るはずのない猫の声を、聞いたこと。

商店街の人々は、それを信じた。

皆が涙を流した。

今、その商店街にはくろすけの墓と小さな銅像が作られ、商店街は  
繁盛しているという……………。

（後書き）

後書き

初めて小説投稿です。

上手ではありませんが、少しでも何か感じていただけたら嬉しく思います。

2006・April・砂・



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5163a/>

---

招き猫

2011年1月11日14時50分発行